

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		①作成日	令和 8 年 5 月 5 日
②法人・団体名	相模原みのり塾		
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	神奈川県相模原市		
④責任者氏名	小布施 実穂子	(役職名等)	代表
⑤担当者氏名	同上	(役職名等)	

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R07-003	⑦助成金額	5 0 万円	⑧申請カテゴリー	B
⑨奨学活動名	経済的に厳しい家庭の中学生を対象とした学習応援活動				
⑩主な実施場所名・ 及びその住所	相模原市立橋本公民館 相模原市緑区橋本 6 - 2 - 1 シティ・プラザはしもと内 (6 階)				

⑪活動内容とその成果の概要 (詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。)

中学生を対象とした無料の学習支援事業

- (1) 定例授業 (全 4 8 回) : 毎週日曜日、ボランティア講師との 1 対 1 の個別授業形式での学習
& 創造学習 : 毎週日曜日の定例授業内で、体験や講話、ミニ実験などを行う
- (2) 集中講習 (受験生向けの夏期講習 1 0 日間、冬期講習 5 日間) & テスト前自習室 (全 4 回)
- (3) 通塾交通費や模試受験代の助成 (通年)

生徒は通年入塾可能で 3 月末に 2 6 名。うち 8 名の中 3 生は全員が高等学校に進学。うち不登校の 2 名も面接練習などを行い通信制高校へ進学。創造学習では、毎週のみのもり塾主催の学習イベント (実験や集団活動) に加えて、外部企業・団体主催の学習イベントを 7 回実施。

県立高校入試に向けて、夏期講習・冬期講習を実施し、入試に臨む生徒たちをサポート。

家庭で学習場所が得られにくい生徒用にテスト前自習室を実施し、学習機会をサポートした。

遠方よりバス通塾する生徒や他市からの生徒のために通塾交通費の補助、また中 3 生に模試受験代を 2 回分補助し、通塾しやすい & 受験勉強に向き合いやすい環境を作った。

⑫奨学活動の定量的把握 (注 : 統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3 - 2 等でご報告願います。)

支援対象	延べ人数 (A : 人)	平均時間 (B : 時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	885	3.5h	3098	定例授業は毎週 3 or 4 コマ + 講習 4 コマ
高校生等	47	2h	94	時々参加
大学生等				
学習支援員等	1510	3.5h	5285	定例授業は毎週 3 or 4 コマ + 講習 4 コマ
その他				
合 計			8477	R7 年 4 月 ~ R8 年 3 月までの集計

令和7年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：経済的に厳しい家庭の中学生を対象とした学習応援活動

法人・団体名：相模原みのり塾

作成者 氏名：小布施 実穂子

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

【取り組んだ課題】

経済的な家庭環境により、学びたいが学ぶ機会やサポートが得られない子どもたちがいる。

どのような環境におかれている子どもでも、彼等の学びや進学を応援し社会にサポートされるべきで、その実現をめざして活動している。

【実施内容】

中学生を対象とした無料の学習支援事業

- (1) 定例授業：毎週日曜日、ボランティア講師との1対1の個別授業形式での学習
& 創造学習：毎週日曜日の定例授業内で、体験や講話、ミニ実験などを行う
- (2) 集中講習：受験生向けの夏期講習10日間、冬期講習5日間 受験対策授業&演習を行う
& テスト前自習室：定期テスト前の土曜日・祝日に自習ができる場所を提供
- (3) 経済的に厳しくても学習の機会が得られるよう、通塾交通費や模試受験代の助成制度あり

2. 実施した奨学活動の詳細

【活動内容の詳細と参加人数】

- (1) 定例授業&創造学習（毎週日曜日：定例授業 13:15-16:45 で45分4コマ）

回	日時	創造学習	講師数	生徒数	回	日時	創造学習	講師数	生徒数
1	4/6	ブラックライトで照らしてみよう！	31	11	26	9/28	受験勉強/暗号解読ゲーム	29	20
2	4/13	コミュニケーションゲーム	31	13	27	10/5	受験勉強/JAXA相模原社会見学	26	17
3	4/20	地図記号かるた&科学かるた対決	32	12	28	10/12	受験勉強/ピタゴラ装置を作ろう	22	12
4	4/27	★「やる気スイッチを探そう」	30	15	29	10/19	★ブレッドボードについて学ぼう！	31	17
5	5/4	クイズ100人に聞きました	22	11	30	10/26	受験勉強/メビウスの輪	30	18
6	5/11	★消費生活・SDGsすごろく	29	15	31	11/2	受験勉強/挑戦！都道府県クイズ！	30	17
7	5/18	ストロー飛行機をとばそう！	34	13	32	11/9	受験勉強/クリスマス雑学クイズ	28	19
8	5/25	光って何？偏光板実験と工作体験	32	15	33	11/16	受験勉強/ヘキサテトラフレクサゴン	35	16
9	6/1	高校入試説明会/協力型ゲーム	30	14	34	11/23	受験勉強/●民俗学フィールドワーク	32	18
10	6/8	飛び出す立体カードを作ろう	34	19	35	11/30	受験勉強/多人数コミュニケーション	30	16
11	6/15	マインドマップで暗記術&記憶術	29	17	36	12/7	受験勉強/参勤交代すごろく	40	24
12	6/22	講師対決？ビブリオバトル	33	17	37	12/14	受験勉強/謎解き脱出ゲーム	32	18
13	6/29	★銅博士になろう！（第1回）	33	16	38	12/21	クリスマスケーキデコレーション	31	20
14	7/6	漫才をやろう！ヘンデコことわざ編	29	14	39	1/4	受験勉強/ダビンの橋	28	17
15	7/13	高校生にきいてみよう！	31	16	40	1/11	受験勉強/徳川将軍8並べ	26	19
16	7/20	模擬選挙（参議院編）	26	14	41	1/18	受験勉強/★パンフルートを作ろう！	29	20
17	7/27	●AIのセカイへようこそ	33	16	42	1/25	受験勉強/イカすごろく	31	21
18	8/3	●光の反射&屈折・理科実験	31	18	43	2/1	受験勉強/★スライムであそぼう！	31	19
19	8/10	一問一答/協力型ゲーム	27	17	44	2/8	・・・雪のため休塾・・・	0	0
20	8/17	一問一答/パラシュートを作ろう！	30	18	45	2/15	受験勉強/飛び出す立体カード見本	33	21
21	8/24	一問一答/目の不自由な人の誘導方法	30	16	46	2/22	ピタゴラ装置を作ろう！	29	20
22	8/31	★銅博士になろう！（第2回）	30	17	47	3/1	ミニパラシュート見本を作ろう	35	20
23	9/7	アイスを作ろう！凝固点降下実験	34	21	48	3/15	うそつき自己紹介&ミニゲーム	28	18
24	9/14	●AIとリテラシー	30	17	49	3/29	六角かえし	24	12
25	9/21	★銅博士になろう！（第3回）	29	17					

★：出前授業（外部団体主催） ●：ボランティア講師発案

■定例授業

基本は学校の復習・補習の内容を実施。テスト前はテスト範囲を中心に見ていただいた。また、さかのぼり学習をする生徒も多く、中学校の内容をやりながらも、小学校で学習する内容も合わせてやったださっていた。

いつものミニホワイトボードの活用の他、先生手作りのカードを用意しゲームのように覚えやすくする工夫や、生徒に自信がつくような手作りのプリントを用意してくださっていた。ボランティア講師たちが、生徒のことを考えてしっかり対応&伴走してくれていることがなにより素晴らしい。

卒業した生徒（高校生）も、時々勉強しに来ており、自習に加えて授業を組み、テスト対策など対応している。

不登校生徒も各学年に1名以上在籍。不登校の原因として起立性調節障害や学校でのトラブルが多い。生活へのアクションはできないが、塾で先生に様子を話してくれるので、まずはつながっていることを継続していきたい。

発達に特性がある生徒も複数通っている。手帳ありなしさまざまだが、学校の学習内容や進度に沿ったものでは習得が非常に困難な状況の中、ボランティアの先生たちは、その中でも本人ができることを探し、ほんの少しずつでも前に進めるように努力してくださっている。

※定例授業は毎回3部屋で実施



■創造学習

「創造学習」は、教科書に沿った1対1の学習をしていく中で、生徒たちに「体験」による知識やリアル感が足りていないこと、また、個別授業ではどうしても受け身になりがちで、あわよくば答えが出てくるのを待っている、といった学習への向き合い方から、自分で考えて何かを生み出す、意見を言う、正解のないものをアウトプットする、という活動を取り入れようと考えて始めたものである。

◎塾担当主導の体験学習（表でマークのないイベント＆●印のイベント）

「勝ち負け」がその生徒の学力で決まりがちなゲームや知識を問うような内容を避け、正解のない内容、工作など創作していくものとなるよう、意識しながら実施した。

創造学習への参加をしぶっていた生徒も、楽しそうに工作したりチャレンジしたりする様子が見られ、競争ではなくその生徒自身の作り出すものに価値があることを、今後も大切に実施していきたい。

一方、少しサポートや声掛けが必要な生徒もいるが、となりに授業担当の先生がついてくれていたりして心強いサポートを感じている。生徒のタイプをよくわかってくださっている。手探りの部分はまだまだあるが、取り組みとしてはおおむね良い方向に進んでいる。



◎外部講師（企業）による体験学習（表の★マークイベント）

2025 年度は計 8 回の出前授業を実施できた。また、初めて他の無料学習団体からの出前授業を実施。全くの無償で謝礼＆交通費も支出できない中、みなさん快く子どもたちと向き合い、さまざまな体験を実施してくださった。



さまざまなジャンルや内容の体験学習をやることで、子どもたちが自分の興味関心のあるものを探すきっかけになると良いと考えている。

(2) 集中講習（受験生向け夏期・冬期講習）＆テスト前自習室

■夏期講習（中3生対象） 全10日間

日時	教科	内容	講師数	生徒数
7/29（火）	英語	ミニ講義＆模試	4	5
7/30（水）	社会	ミニ講義＆模試	3	5
7/31（木）	英語	ミニ講義＆模試	5	5
8/1（金）	数学	出題傾向＆模試	5	6
8/4（月）	理科	出題傾向＆模試	3	5
8/5（火）	数学	ミニ講義＆模試	5	5
8/9（土）	国語	出題傾向＆模試	3	4
8/13（水）	国語	ミニ講義＆模試	3	2
8/16（土）	社会	ミニ講義＆模試	3	6
8/18（月）	理科	ミニ講義＆模試	4	6

■冬期講習（中3生対象） 全5日間

日時	教科	内容	講師数	生徒数
12/26（金）	数学	模試＆解き直し	5	4
12/27（土）	社会	模試＆解き直し	2	4
12/28（日）	国語	模試＆解き直し	2	3
1/5（月）	理科	模試＆解き直し	3	4
1/6（火）	英語	模試＆解き直し	2	4

■テスト前自習室（全塾生対象）

日時	会場	講師数	生徒数
6/7（土）PM	ボランティア活動室	3	3
6/14（土）PM	橋本公民館・小会議室	1	1
11/1（土）PM	橋本公民館・ミーティング室	2	4
11/8（土）PM	橋本公民館・小会議室	2	1



受験生の講習は、基礎から復習したい生徒が多かったため、ミニ講義や基礎知識の復習の時間を多くとった形で行った。受験のあと、夏期講習＆冬期講習で入試に絞って取り組めたことがとても良かったとの感想が多くあった。

自習室は、様々な事情で学習する場所が確保できない生徒がいるため、少人数でも必ず実施している。

(3) 通塾交通費や模試受験代の助成を実施

塾の制度として、①通塾交通費助成、②模試代助成、③高校教科書代奨学金＆進学準備助成がある。

①②の目的は、家庭の負担軽減もあるが、メインは生徒の心理的負担を軽減するために設けている。

経済的に厳しい環境にいる生徒たちは、通塾にお金がかかること（交通費：バス代で往復 1,000 円以上かかる地域あり）を気にして塾を休んだり、模試代が高いため模試を受けないようにしたりする。団体立ち上げ時、真面目に取り組むのに頻繁に休む生徒、模試を一度も受けず入試に臨む生徒がいて、このことに気づかされ、「学びをつなぐ」制度として創設した。

①は、往復 300 円を自己負担してもらい、それ以上かかる分を塾で助成、②は年 2 回分を交通費も含めて助成。3 回目以降を自己負担してもらっているが、実際には模試は 2 回しか受けない生徒が多い。

2025 年度は、①全生徒 26 名中 9 名が利用、②受験生 8 名中 6 名が利用した。

さらに、高校進学時には、さまざまな物品を購入する必要があり、家庭にまとまった資金が必要となるが、なかなかそれができない家庭があり、結果として学習のための文房具や衣服、靴など生徒たちの生活に直接かわるものが削られていく。そこで生徒たちの自尊心を削らずサポートできるものとして③を設け、助成している。

学習に大きく関わる「高校教科書代」を奨学金として 1 万円給付（教科書は入学時に購入する分だけでおおむね 3 万円前後）、さらに、GIGA スクール構想で各自 PC 購入が必須となったため、学校指定 PC の購入代のうち「進学準備助成」として 1 万円給付（PC 代 5 万～：高額で負担大）。

2025 年度は、③受験生 8 名中 7 名が利用した。

【周知方法や協力いただいた関係者】

生徒の募集は団体 HP にて通年で実施。団体 HP や相模原市社会福祉協議会の「子どもの居場所」サイト、神奈川県「かながわ子育て応援パスポート」サイトで詳細を知ることができる。
その他、全国の無料塾同士のつながりがあり、情報交換や物品のやりとりを行っている。

【地域やボランティア活動との連携】

- ・創造学習では5企業、2ボランティア団体より出前授業を実施していただいた
- ・6/5(木) NPO 法人「全員参加による地域未来創造機構」主催の市民基礎講座にて当塾の事例紹介
- ・3/8(日) 橋本公民館まつり 子どもの工作体験コーナーを出展
- ・3/14(土)「拡大する学びの場と学校の在り方」代表がパネリストとして参加
- ・不登校の親の会に定期的に参加し情報交換(2025年度は8回)

【学習支援員について】

ボランティア講師は主に HP で募集。希望者は参加前に面談を実施し、ボランティア活動の内容説明に加え、生徒への態度・考え方、個人情報の取り扱いについて、遵守し活動する旨の署名をいただいている。特に資格などは不要であるため、さまざまな職種、年代、性別の方たちが集まっており、その知見や立ち位置が、生徒たちにとってはさまざまなナナメの関係となり、良い関係を作っている。

1対1の個別授業は専任担当制としているため継続して生徒を見守り伴走できる。また、他の講師や運営側と共有できるツールを使い、各生徒の授業の様子や理解度、気になることなどの情報を共有。生徒の生活での SOS や学習のつまずき、背景にある状況などをキャッチできるようにしている。
活動中での不安や困りごとについても、運営側とのメールやグループウェアを積極的に活用し、参加して間もないボランティア講師には、運営側から声掛けをして場になじみやすい雰囲気を作っている。

また、直接意見交換する場として、ボランティア講師の意見交換会を年2回実施。多くの生徒との交流場所として、創造学習への参加も積極的に推奨しており、生徒のみならず講師同士も良い交流の場となっている。

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

学習をサポートすることで、当塾に通う子どもたちの学力が向上していくことは成果のひとつと言えるが、それにも増して、彼等の自尊心や「できた！わかった！」の楽しみや嬉しが増え、彼等の日常が楽しく過ごしやすなものになっていけば幸いである。当塾は入塾すると辞める生徒がほぼいない。そこには、自分を認めてくれる居心地の良さや、安心感があるのではないかと感じている。子どもたちが獲得した小さな自信の種が、彼等の将来を形作っていく糧になっていく。学習成果のみならず、周りの大人や体験から感じるさまざまなことから、子どもたちが自分の良さに気づき、コミュニティの中で生きていく力を作る一端を担っていかれたらと思っている。

本年度の反省点・課題としては、このところ急に増えてきた支援級に通う生徒や、何らかの特性を持つ生徒、また、学校に行けていない生徒への対応の在り方である。学校での学びがどのようになっているかが見えず、生徒や保護者からの情報もあいまいで、生徒自身も取り組みたい学習が何なのか分からない状況がある。

学校側が情報の取り扱いに慎重になっていることは理解できるが、子どもたちの生活の大半を占めている「学校」での過ごし方や対応、学習内容について、もっと学校と連携を図っていきたい。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

今年度一番嬉しかったエピソードは、以前みのり塾の生徒であった2名の大学生ボランティア講師が当塾を「卒業」し社会に出たこと。かつて無料塾でボランティア講師に教えてもらっていた生徒が、成長して今度はボランティア講師として次の世代の生徒を教えている。彼等は「恩返しみたいなものです。ボランティアはとても楽しいです」と言ってくれる。本当に嬉しい瞬間。長く続けていることで、このような素晴らしい循環と人とのつながりができていくことが喜ばしい。

みのり塾は、子どものための場所。運営のやり方や資金の問題など、日々困りごとはいくつもあるが、何かを検討するときに、「子どもたちにとってどうなのか？」を第一に考えることを大切にしている。私たち大人は、どうしても大人の感覚や論理で物事を考えがちである。それはしょうがない、今はがまんするしかない、お金がないから、いつか良くなる、今は難しい・・・など。でも、子どもたちの子ども時代は「今」しかなく、いつか良くなることを待っていても、今困っている子どもたちは困っている時間を過ごすだけになってしまう。

過去にとらわれず、新しいことにもチャレンジしていきたい。そして、チャレンジの場を与えてくれる子どもたちに感謝したい。運営メンバーやボランティア講師に幸せをくれているのは、子どもたちである。